

巻 頭 言

聖泉大学 学長

筒 井 裕 子



看護学部開設時から学術雑誌として発刊してきた「聖泉看護学研究」は、7年目を迎えました。当時、看護学部開設1年目には学術雑誌編集委員会を発足し、大学教員として研究の成果を論文にまとめ、その成果を世に問う機会を創ることが重要と考えました。

初代の学術編集委員長は石田英実先生にお願いしました。その際、「教員は何に関心を持ち研究しているか、個々人の持つユニークな研究を形にして出す」ための指導・発展と学術的見解で編集して頂きたいとお願いしました。

本学部の研究活動として、看護学教育の特徴でもある1年間の実習・授業・委員会活動など、大変忙しい中、今年度は科学研究費の獲得への挑戦16件、学術雑誌の投稿10編、海外を含め学会発表など、多くの教員が取り組んでいます。また、研究活動を進める環境を整えるため、流郷学部長が学科会議の後、毎回、研究に関する研修の機会をつくってくれています。

さらに、看護学部では開設時からキャリアアップ講座を設け、実習施設の方々向けの「研究に関する講座」を開設しています。ここ数年、30名の定員がオーバーし、多くの看護職の方が熱心に受講されています。今後は、この方々と本学教員とが協同研究し、現場の有効な研究へと繋がっていく事を願っています。

本学看護学部の卒業生は70～80%が県内に就職し、夫々の職場でご指導頂いていますが、卒後数年間は不安も大きいことから、卒後教育として、キャリアアップセンターで「技術」「研究」「災害看護」などのテーマで研修を行っています。これらを活かして、それぞれの職場で研究課題を見つけ、卒業生からも研究への意欲や楽しさを、卒業論文では得られなかった、実践での学びを生かし取り組んで欲しいと考えています。また、大学院への進学が、キャリアアップに繋がり、より良い看護に発展する研究へ貢献できれば、聖泉大学の教育の発展の証として大変うれしく思っています。

今後さらに、教員が学術雑誌へ投稿し、学術雑誌の充実を図るとともに、国内外へと繋げ、研究の面白さを、伝えていく役割を担って頂きたいと願っています。

